

福岡市環境教育・学習計画推進協議会 議事録 要旨

■日 時：平成28年8月25日（木）14：00～16：00

■場 所：西鉄イン福岡2階Bホール

■議事1：会長選出

福岡市環境教育・学習計画推進協議会設置要綱第5条第2項に基づき、委員の互選により、浅野委員を会長に選出。

■議事2：副会長の指名

福岡市環境教育・学習計画推進協議会設置要綱第5条第4項に基づき、会長が荒瀬委員を副会長に指名。

■議事3：福岡市環境教育・学習関連策定について（平成27年度）

（事務局）資料を抜粋して説明。「福岡市環境教育・学習計画（第三次）」の中で示した9の基本的方向に基づいて、平成27年度に行った行政の取組み実績について報告。

◇各委員からの主な意見

〈市民アンケートの項目について〉

- ・「エアコンの設定温度を控えめにする」という項目のポイントが下がっているが、28度というのは一つの目安であり、28度に設定していなくても、昔みたいに22、23度で空調を設定する人はいなくなっただと思う。この聞き方では、そういう人たちのことが全く掴めない点が問題だと思う。
- ・学校で「緑のカーテンプロジェクト」に取り組んでいるので、アンケートの項目に「自宅で過ごすとき」以外に「地域や学校で取り組んでいる」というような項目があれば良いと思った。
- ・アンケートの聞き方で、一般市民に分かりにくい言葉があるので、分かりやすく書いた方がいい。
- ・「環境活動への参加状況」を聞いている項目は、例示が「緑地の保全」、「希少種の保護」など、取り組むのが難しい活動が多いので、聞き方を工夫した方がいい。
- ・経年変化を追うことにあまり意味はないと思うので、アンケートの聞き方を見直してはどうか。

〈成果指標の達成状況について〉

- ・指標については、策定時と比べて2016年度の数字が全体的に下がっているが、全国的に同じ傾向にある。2011年の東日本大震災で皆環境に関心を持つようになったかと思ったが、その後、全体に関心が薄らいでしまっている。
- ・成果指標の目標値は2012年度の調査で「参加したい」と回答した人の割合であり、現状値とのギャップが、やりたいと思っているが現状が伴っていない人の割合なので、きっかけ作りや情報発信など、何か工夫でできることがあると思う。

〈学校での環境教育・学習について〉

- ・社会科で環境について学ぶ単元があり、環境学習支援事業などで、子どもたちはパッカー車を見ながら楽しく環境について学んでいる。
- ・学校を通して、保護者に対しても環境教育・学習の効果が出ていると思う。
- ・海の中道青少年海の家では、子ども達と一緒にビーチクリーンアップを行っているが、近所の川に捨てられたごみが海に流れ着くことなど、活動の中で出てくる子ども達の気付きを取り上げて、環境学習に繋げることが必要。
- ・ただ教科書に載っていることを教えて終わるのではなく、学んだことを行動に移すところまでやっ

て欲しい。

- ・環境の視点はどの教科にもある。子ども達が勉強したことが家庭に伝わるようにするのが学校の仕事だと思う。
- ・子ども達が地域の方と一緒に環境活動に参加する機会を増やすことが大事である。

〈新規事業「わたしたちの樹プロジェクト」について〉

- ・子どもたちに木を選ばせるのは良いと思うが、福岡に昔からある在来種、潜在自然植生の木を植えるということに気を付けて欲しい。
- ・新しく植える木だけでなく、現在ある木を使っての学習もすべき。
- ・とてもいい取り組みだと思う。指標が新たに何校に植えたかとなっているが、既に学校にある木を教材と捉えて学習活動をした校数も、指標に反映させるといいと思う。

〈本市の取り組みについて〉

- ・「緑のカーテン」には、公民館が頑張っていて取り組んでいる。地域の方みんなで色々なアイデアを出しながら、楽しんで取り組んでもらえればと思う。
- ・「環境学習教材の貸出し」の件数が少ないが、教材は貸し出すだけでなく、データでの提供を行えば、紙芝居をプロジェクターに写すというようなことができる。
- ・「環境学習教材の貸出し」は、まもる一むと事業が重複しているのではないか。どこか一箇所に統合した方が合理的ではないか。
- ・市が独自に教材を用意するならば、ほかでは知ることができない福岡市での取り組みなどを入れるべき。
- ・教材としては、全部を語りつくしてしまうようなデータや資料がパッケージであるよりも、5分・10分で使える物が沢山ある方がいい。
- ・「市立小中学校への太陽光パネル整備事業」で得た売却益で、企業が何に貢献しているかなどのアンケートを行い、それを再評価できる形にした方がいい。
- ・事業者の活動支援については、一方的に講座を開催し、企業の人が受講するものが多いので、市民アンケート調査のポイントが低いものについて、例えば緑化を増やすための方法を事業者と対話的な方法と一緒に学習するというようなものがあると良いのでは。
- ・「エコイベントふくおか」手引書がどの程度利用されているのか把握する必要がある。
- ・城南区の独自事業「ハチクマウォッチング」では、区役所と公民館が一緒になって、情報を提供するという効果が出ている。
- ・地域団体の活動に児童・生徒が参加している取り組みが「環境行動賞」を受賞し、地域が盛り上がっていると聞いているので、是非続けて欲しい。環境活動に地道に取り組んでいる地域はたくさんあると思うので、もっと目立たないところにも目を向けるべき。
- ・黄砂やPM2.5、熱中症などの情報をあらゆるツールで配信する取り組みは評価できる。
- ・県外からの来客が多い時期に合わせて、人通りが多い那珂川で美化活動をすれば、福岡市を訪れた人にもアピールできるのではないか。
- ・学校や事業所など、あらゆる場で環境教育が進められ、学ぶ機会が提供されているが、そういう枠組みに入っていない人達にどうやって環境に関心を持っていかかわってもらえるか。
- ・低年齢の頃から環境に関心を持ってもらうことが大事なので、保護者と子ども達が一緒に環境について学ぶ機会があれば、家庭の中、実生活の中に繋がっていくと思う。様々な視点から環境について学ぶことが大切。
- ・市民や事業者、色々なセクターと福岡のグリーンインフラをどう作るかという考えで繋がることを意識する必要がある。